

東京オリンピック・パラリンピックの開催延期決定に係る対応について

令和2年4月21日
スポーツ課

去る3月30日、約1年程度の延期が決定していた東京オリンピック・パラリンピックについて、オリンピックは2021年7月23日から8月8日（17日間）まで、パラリンピックは同年8月24日から9月5日（13日間）までの間開催することに決定しました。

本県では、これに先立つ3月24日夜の大会延期決定の報を受け、聖火リレー、事前キャンプ受入、東京オリンピック・パラリンピック出場に関係した競技団体等の関係者出席のもと、同月27日に「第1回東京オリ・パラ関係者合同対策会議」を開催し、現状、課題の情報共有と今後の対応等について協議しました。

1 会議概要

日時：令和2年3月27日（金）午後2時45分から3時15分まで

場所：とりぎん文化会館第3会議室

出席者：（行政）平井知事、深澤鳥取市長（県市長会長）、宮脇湯梨浜町長（県町村会長）、津田県警本部長、山本教育長ほか

（競技団体）鳥取陸上競技協会浜崎会長、鳥取県セーリング連盟善波副会長、鳥取県卓球連盟依藤会長、鳥取パラ陸上競技協会山本会長、鳥取県水泳連盟川口会長、鳥取県ボクシング連盟林副会長ほか

（関係団体）鳥取県体育協会（現鳥取県スポーツ協会）、鳥取県障がい者スポーツ協会

内容：東京五輪開催が1年程度延期されることが決定したことに伴い、聖火リレー、事前キャンプ受入等の関係者間で情報を共有し、課題及び今後の対応等について協議した。

2 現状、対応について

1) キャンプ誘致

- ・本県での事前キャンプ実施が決定している海外競技団体宛に、延期後の東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプを本県で実施するよう改めてお願いする旨の知事親書を発出した。
- ・クライミングフランス代表チーム、及びクロアチア拠点のセーリングチームのJ.K.モルナルから来年の事前キャンプを本県で実施するとの回答が届いたほか、ジャマイカオリンピック協会第二副会長からも、今後の取組みにも本県と共に連携する覚悟に変わりはないとの返信が届いた。
- ・キャンプ実施施設、宿泊施設などの予約取消は完了したが、来年のキャンプ受入に向けて再手配が必要となる。布勢総合運動公園陸上競技場は、既に大会等利用予定が入っている日もあるため、競技団体等との調整が必要となる。
- ・高まっていたキャンプ受入機運が立ち消えとならないような企画・実施を検討する。ジャマイカとのホストタウン交流も実施可能な事業を検討する。

2) 聖火リレー

- ・聖火リレー実施延期を受けて、各市町村をはじめ、関係者への連絡を済ませたほか、外部への委託を予定していた警備業務やセレブレーション（聖火到着セレモニー）運営業務については契約事務を保留し、使用予定会場の予約を取り消した。
- ・現時点では、大会組織委員会から新たなリレー日程や実施方針については示されていないが、決定次第、県実行委員会を中心に関係者と連携して準備を進めていく。

3) 本県の五輪出場アスリート

- ・東京五輪出場が内定している本県アスリートは、三上紗也可選手（飛込）と入江聖奈選手（ボクシング）の2名。東京五輪延期決定を受けた内定選手の出場資格について、日本水泳連盟から見解・方針は出ていない一方、日本ボクシング連盟からは、再選考はしない方針が出ている。
- ・他にも東京五輪・パラリンピック出場が期待される本県アスリートが存在しており、大会が1年延期になったことを受けて、支援を延長して欲しいとの意見がでた。競技団体と個別に調整しながら、必要な措置を講じていく。